

学習活動分野の定義及び現状と課題

学習活動の定義

学習活動は、子どもから大人まで生涯のいつでも、趣味や生きがい、キャリアアップなどのために、自由に学習機会を選択して行う活動のことである。学びの中で得た自分の知識を他人や地域づくりに生かしていくことも学習活動の一環である。

学習活動分野の現状と課題

①誰もが参加しやすい学習機会の提供

- どのような立場・状況にいる人でも、思い立ったときに、好きなところで学びを実践できる機会をより充実することが重要である。
- スキマ時間を活かして、働きながら参加しやすい講座、活動が必要である。
- 定年が延長されたことから、講座や活動に参加する新たな受講生、ボランティアが減少している。若いうちから長く活動できる仕組みが必要である。
- 外国人や障害者などへの学習活動の支援は重要であり、誰もが平等に生涯学習の場を確保できるような環境づくりが必要である。
- 障害者・高齢者・外国人など個別対応ではなく、誰にとっても「面白く学べる」生涯学習の場や機会の拡大を目標にするべきである。
- 図書館はこれまでも活用が進んでいるが、区民にとっても身近な施設であり、図書館の持っている知識資源、スペースの更なる有効活用の余地について検討する必要がある。

②学習活動の役割と考え方の整理

- コロナ禍で外国人や外国文化に触れる機会が減少しているが、コロナへの関心から国際理解や多文化共生社会への関心を高める学習機会が必要である。
- SDGs と学習との関係は、第4の目標（質の高い教育をみんなに）だけでない。持続可能な社会を生涯学習の立場から支えるという考え方が重要である。

③オンラインを活用した学習機会の提供と支援

- ウィズコロナを含め、Society5.0を見据えてオンラインを活用した講座の提供が必要となるが、高齢者などのデジタル弱者や経済的な状況などにより学習可能性の格差も生じることが考えられる。そのような層に対して、デジタル教育の基本学習や支援の提供が必要である。
- オンライン講座の実施が増えていくと考えられるが、高齢者等に対してデジタルデバインド対策が必要である。
- デジタルを利用した講座を充実するためには、講師として教える側と受講する側の両方を育成する必要がある。区内の大学等と連携しながら、オンラインを活用した非接触型の講座について意欲的に進めていく必要がある。
- オンラインを活用した講座の拡充のほか、オンラインと対面の相乗効果を生むような「ハイブリッド型」の学習機会の新規開発に力を入れることが必要である。
- オンラインを活用した講座の拡充、SNS や口コミによって区民同士の間で評判等の情報が交換できるような仕掛けが必要である。

④学びを通じた交流へつなげる取組の強化

- 実態調査からは個人学習に特化している傾向がみられる。区の学習機会提供・学習支援としては、できるだけ「交流型」の学習を推進するという考え方が重要である（オンライン上の交流も含め）。
- 学習活動で得た内容等を他の人に伝え活かす事は重要だが、機会がなかなか得られない。町会やママ友などさまざまなネットワークの活用について検討する必要がある。
- 生涯学習司、地域文化インタープリター、アカデミアサポーターは、「区民の生涯学習の支援のため」ではなく、「自己確立」の手段となり、実際に活動する人材が不足してきている。修了後はそのまま即戦力として活動してもらう目的に特化した講座にする必要がある。
- 生涯学習司、地域文化インタープリター、アカデミアサポーターの養成講座を受講しても、その後の活動につながらない人が多い。事前に受講後の具体的な活動を提示する必要がある。
- 生涯学習司、地域文化インタープリター、アカデミアサポーターなどの資格を学生が取得し、若い人材の活躍を推進するとともに、就職活動のアピールポイントとして後押しするようなことが求められる。

⑤学習活動環境の充実に向けたネットワークの構築

- 区民が学習活動で得た内容を地域や他人のために活かすことについて、区民が十分に意識・理解しているとは言えない状況となっている。学びを人づくり、つながりづくり、地域づくりに活かすことの意義や必要性を伝え、理解してもらうことが重要である。
- 地域のつながりという「ご近所の人と土地のつながり」とイメージしてしまうが、「地続きの（文京区全体）人と人とのつながり」と考えるとより広く様々な発想が生まれてくる。
- 生涯学習司、地域文化インタープリター、アカデミアサポーターは活動の一部が重なっているため、そこに関して共同化し、効果的に活動を行えるように連携する必要がある。
- 生涯学習司、地域文化インタープリター、アカデミアサポーターなどが、地域における学びの輪の中核を担う人材として活躍していくために、さらなるステップアップ講座の充実や相互に連携協力できる支援が必要である。
- 学習活動の地域還元について成功事例を具体的に提示することで促進させることが必要である。
- 「文京区らしさ」を活かした講座等を提供するなど、区独自の取組を行い、民間の学習講座との差別化が必要である。